

## 特集

## 協同組合が結ぶ「つながり」の今

今、高校生や大学生にSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）の利用状況を尋ねてみれば、ほぼ全員がLINEを使っていると答えるだろう。Twitterにいたっては、一人で複数のアカウントを持っていることも珍しくない。彼らはアカウントごとに、顔見知りの友人、趣味の仲間、そして見知らぬ他者とつながっている。

こうした傾向は若者に限った話ではない。モバイル機器とインターネットの普及によって、私たちは時間や場所を気にすることなく、多くの他人とつながれるようになった。

「つながり」が増える一方で、逆に「つながり」を忌避する傾向も現れている。そもそも「つながり」は良い面だけではない。以前の「つながり」は、人生を決定する鎖であり、多くの責任と義務を伴っていた。そのため、現代では緩やかな「つながり」志向が高まりつつある。しかし、リーマン・ショック後の世界的な不況や東日本大震災は、私たちのくらしを支える仕組みが、いかに不安定で脆

弱なものであるかを如実に示した。そうした不安を和らげるために、血縁や地縁などの触れ合える「つながり」が求められるようになってきている。

加えて、より深刻な問題は、もっとも「つながり」を必要とするシングルマザーや若年の非正規労働者、高齢者こそが、「つながり」をつくる機会からもっとも遠ざけられてしまっていることである。いわば、現代に生きる私たちは、「つながりたい」し「つながらなければならない」にも関わらず、「つながりたくない」し「つなげれない」という矛盾を抱えているのである。

この「つながり」を巡る複雑な状況において、協同組合には何ができるのか。そして、何をしなければならないのか。そうした疑問から、本号の特集では、協同組合の「つながり」づくりの実態に注目した。特集を通じて、協同組合の取り結ぶ「つながり」可能性を考えてもらえれば幸いである。

（本誌編集委員 加賀美太記）

1. 保育園が結ぶ食を通じた人と人とのつながり（元橋 利恵）
2. 医療福祉生活協同組合が育む地域のつながり  
～たまり場をとおした組合員、地域住民、行政間の交流（小田巻 友子）
3. 高齢者生協運動の展開 ～育んできた「つながり」に着目して（熊倉 ゆりえ）
4. 若者たちの「つながり」～大学生協学生委員会の今（奥田 祐樹）